

2024年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2023 を選出：社債は 7&i、PO はデンソー

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2023”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2023年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

債券は、日本銀行の政策変更への思惑で、金利変動が激しいなかでの発行となった。そうしたなかでの起債の成功が評価されている。セブン&アイ・ホールディングスや日本学生支援機構、千葉県がこの観点で受賞した。メガバンクでは三井住友フィナンシャルグループが国内で、三菱 UFJ フィナンシャル・グループが海外でAT1債を発行し、支持を集めた。ソフトバンクの社債型種類株式は Equity 特別部門で受賞。IPO は1000億円の KOKUSAI ELECTRIC が、PO では持ち合い解消の流れを作ったデンソーが、CB は当年度最大の大和ハウス工業と、PO と同時に3日間でマーケティングした JFE ホールディングスが選ばれた。

以下が授賞リスト(〈 〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEALS OF 2023

第16回	セブン&アイ・ホールディングス債	10月27日	3年	600億円
第17回	セブン&アイ・ホールディングス債	10月27日	5年	600億円
第18回	セブン&アイ・ホールディングス債	10月27日	7年	300億円
第19回	セブン&アイ・ホールディングス債	10月27日	10年	700億円

〈野村/SMBC 日興/三菱 UFJ モルガン・スタンレー/みずほ〉

中東をめぐる地政学リスクが高まり、直後に控えていた日銀会合(10月30~31日)への警戒があったなか、約3年ぶりの希少性や信用力、知名度の高さを生かし、総額2200億円のディールを無事に仕上げ、3400億円超の需要を集めた。長期の年限で苦戦する案件も見られた状況で、10年債で700億円の起債を実現した

特別賞

劣後第 11 回 三井住友フィナンシャルグループ債 4 月 19 日 永久 (NC5.17) 890 億円
劣後第 12 回 三井住友フィナンシャルグループ債 4 月 19 日 永久 (NC10.17) 510 億円
<SMBC 日興>

クレディ・スイス債がスイスの金融当局によって無価値化される“AT1 ショック”後、G-SIBs で第 1 号の AT1 債。総額 1400 億円の起債に成功し、同商品の復活の第 1 歩を踏み出した。同時に、本邦金融システムの盤石さをグローバルにアピールした。

BEST ISSUER OF 2023

NTT ファイナンス

7 月に総額 3800 億円、11 月に同 2200 億円と、当年度は計 6000 億円のグリーンボンドを供給。国内トップクレジットの発行体として人気の高さと存在感を示したうえ、グリーンファイナンスのマーケット拡大に寄与した。

財投機関債等部門

BEST DEAL OF 2023

第 74 回 日本学生支援機構債 1 月 17 日 2 年 300 億円
<三菱 UFJ モルガン・スタンレー/野村/東海東京>

硬直的な運営が多い公共債のなかで、投資家の要望に応えた起債が好感された。金融政策変更への警戒と金利変動が大きかったことから、マーケティング期間を 3 日間から 2 日間に短縮し、翌週に控えた日銀会合から少しでも離すため、条件決定日を通常の日曜日から水曜日に前倒しにした。さらに、金利の低下に対応するため 0.10% の下限利率を設定した。

BEST ISSUER OF 2023

日本政策投資銀行

四半期の初めに登場し、3 年・5 年・10 年という基幹年限の水準を示した。財投機関債として最大の総額 3850 億円を起債。定例債のほか、20 年債と 2 年サステナビリティボンドも発行し、幅広い年限での投資機会を提供している。4 月の 3 年債では、下限利率を設定し、8 月の 2 年債ではプライシング基準を絶対値からスプレッドに変更するなど、相場の変調に合わせて柔軟に対応した。

地方債等部門

BEST DEALS OF 2023

令和 5 年度第 1 回 千葉県債 4 月 5 日 10 年 200 億円
<野村/みずほ/東海東京>
令和 5 年度第 2 回 千葉県債 4 月 5 日 5 年 200 億円
<野村/みずほ/三菱 UFJ モルガン・スタンレー>

当年度最初の地方債として登場。国債カーブ対比のスプレッドを 10 年債で 5bp、5 年債で 3bp 上方修正し、3 月の金融不安や金利の低下による両年限の需給不安を払拭した。後続や並走銘柄の消化を伴う適正值を示し、トップバッターとしての重責を果たした。

BEST ISSUER OF 2023

地方公共団体金融機構

2年連続の受賞。毎月の10年債を始めとした安定的な発行と、これを通じた継続的な投資家との会話、投資家基盤の厚さへの評価が高い。10年のほか、5年・20年・30年の年限にわたって、総額5480億円を供給した。10～12月に金利が急低下して需給が緩んだことで10年地方債の流通実勢がワイド化し、新発債の販売不振も見られたなかでも地方債フラットのスプレッドで起債し、増額や超過需要を実現した。

非居住者円債部門

BEST DEAL OF 2023

第A号 ポーランド開発銀行債 5月17日 10年 930億円

〈主幹旋人：大和/野村〉

ウクライナ難民向けの支援基金に資金を拠出するための起債。同国の隣国という地政学リスクが意識された一方、国際協力銀行（JBIC）保証付きで1%超の利回りが付く点が注目され、1000億円近いオーダーを集めた。広島でのG7サミットを直前に控えていたなか、議長国の日本にとっては、ウクライナ支援を国内外に示す象徴的な案件だった。

BEST ISSUER OF 2023

BPCE

当年度は2回の起債で総額3427億円と、前年度の同1851億円を大幅に上回る額を供給した。7月は各4本のシニア債と非上位シニア債で、発行体の円債として過去最大となる同1977億円を調達。12月の5本立て債は、長年円債を担当してきたローランド・シャボンネル取締役の“引退ディール”として注目され、同1450億円まで札を積み上げ、同氏の有終の美を飾った。

証券化部門

BEST DEAL OF 2023

該当なし

BEST ISSUER OF 2023

住宅金融支援機構

証券化市場最大の発行体で、同市場の維持・拡大に引き続き貢献している。当年度は12件・合計7662億円の月次RMBSを供給した。10年近辺の公共債の好調ぶりをRMBSでも示し、タイト化が7カ月連続して進んで4月債の国債+57bpから10月債では+34bpとなった。スプレッド縮小による見送りがあった一方、絶対値を好感する参入も回号によっては見られ、総じて強い需要が続いた。12月には1bpワイド化したものの、3月債は、マイナス金利解除を見込んだ需要などを集め、+34bpに戻している。

外債部門

BEST DEAL OF 2023

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ劣後債 10月18日 永久 (NC5) 7億5000万ドル
〈モルガン・スタンレー/MUFG セキュリティーズ〉

邦銀初の海外市場での AT1 債で、バーゼル 3 導入後においても初の海外での資本性証券。クレディ・スイス債が無価値化された“AT1 ショック”を受け、AT1 債のストラクチャーや、日本における破綻法制の強靱性を投資家に説明するなど、入念な準備を経て登場した。邦銀 AT1 債の希少性や安定的なクレジットという強みを生かし、持ち出しから大幅にタイトな水準でのプライシングを実現したうえ、その後の邦銀 AT1 債のベンチマークにもなった。

BEST ISSUER OF 2023

該当なし

Equity 特別部門

BEST DEAL OF 2023

ソフトバンク第1回社債型種類株式 11月2日上場 公募：3000万株 1200億円
〈野村/みずほ/大和〉

議決権を希薄化させずに、会計上と格付け上の資本を拡充するという発行体のニーズに応えたハイブリッド商品で、資本市場に新風を吹き込んだ。普通社債よりも高い 2.5%の配当利率でミドルリスク・ミドルリターンを志向する個人投資家の需要を集めた。

新規公開株式部門

BEST DEAL OF 2023

KOKUSAI ELECTRIC 10月25日上場 売出：5884万7600株 1082億7958万4000円
〈野村/モルガン・スタンレー/SMBC 日興/ゴールドマン・サックス/みずほ〉

1000億円を超える大型案件を成功させた。半導体サイクルの底で関連銘柄が値崩れするなか、投資家の需要やセカンダリーを踏まえた価格設定と、海外優良ロング 2 社による IOI など、海外を中心とする需要を喚起した。

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2023

デンソー 11月29日 売出：2億5637万3400株 5305億6475万1300円
〈野村/SMBC 日興/大和〉

トヨタグループで先陣を切って日本企業固有の課題である政策保有株式の問題に取り組む姿勢が市場にインパクトを与えた。持ち合い株解消を本格化させる流れを作った功績が評価された。オフリング総額は当年度最大。

投資法人投資口 発行・売出部門

BEST DEAL OF 2023

インヴィンシブル投資法人 7月19日 公募：60万9792口 338億8370万2272円
〈SMBC日興/みずほ/モルガン・スタンレー〉

4年ぶりホテル系リートのグローバル案件。コロナ禍が収束し、国内旅行やインバウンド需要の回復を捉えたタイミングでローンチした。客室稼働率の上昇による分配金の成長期待で海外のロングオンリーやプロパティファンドが全員出動し、ホテルセクターの回復を印象付けた。

BEST ISSUER OF 2023

該当なし

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEALS OF 2023

大和ハウス工業 ユーロ円 CB 1月11日 5年 1000億円
大和ハウス工業 ユーロ円 CB 1月11日 6年 1000億円

〈野村/モルガン・スタンレー/SMBC日興/大和/みずほ〉

ダブルA格の優良ネームによる大型CBで発行額は当年度最大。金利の上昇が見込まれたなか、ゼロクーポンで開発資金を調達するとともに、自社株買いによる資本効率の向上を実現した。100件程度が参加する盛り上がりを見せ、日本物CBへの投資意欲を再認させた。

JFEホールディングス ユーロ円 CB 9月5日 5年 900億円

〈JPモルガン/ゴールドマン・サックス/野村〉

POとの同時マーケティングにより、CBでは珍しい3日間のマーケティング期間を設けた。投資家に配慮したストラクチャーで仮条件のレンジの10%引き上げに成功し、ボラティリティ対比で高い約40%のアップ率を実現した。

■キャピタル・アイ Awards とは：

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債等、地方債等、非居住者円債、外債（日本企業による海外発行債）、証券化、新規公開株式、既公開株式、投資法人投資口、転換社債型新株予約権付社債（CB）の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

所在地: 東京都港区六本木 1 丁目 8-7 MFPR 六本木麻布台ビル

設立: 2006 年 7 月

資本金: 8 千万円

主な事業の内容: 金融市場に関するオンライン情報サービス(ニュース及びデータベース等)

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <http://c-eye.ne.jp>(契約者サイト) / <http://c-eye.co.jp>(公開サイト)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部: 菊地健之 03-6824-7531